

NEWS PAPER

SUPER FORMULA 2021 P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Take Free!

@INTERVIEW '1'

Sho TSUBOI #38

38号車 ドライバー 坪井 翔

次の課題につなげる走りへ

'2' **Sena SAKAGUCHI #39**

39号車 ドライバー 阪口晴南

良い収穫になった

@INTERVIEW '3'

Yuji TACHIKAWA

監督 立川 祐路

リベンジの鈴鹿へ

Today's Race Rd,2

Suzuka Circuit

4.24^{SAT} / 25^{SUN}

@Race Archive Rd.1 Fuji Speedway

今シーズンを迎えた
若き燕たち
ドライバー

Vol.

2

@Race Archive

Rd.1 Fuji Speedway

レースアーカイブ
Round.1 富士スピードウェイ

今シーズンを迎えた 若き燕たち

コロナ禍の中で迎えたシーズンは、昨年から2シーズン目を迎えた。今季もレースウィークは感染予防などコロナ対策を実施し行われる。そしてこれまで2度のタイトルを獲得するなど輝かしい戦績を残し昨年限りでこのカテゴリーを引退した石浦宏明選手の手英断を受けチームは新しい体制で今シーズンに挑む。



Q1 予選

4月3日(土) 天候:くもりのち晴れ/コース状況:ドライ
14時40分、日差しが最大に降り注ぐ中、予選Q1がスタートした。トラフィックを避ける為、18台のクルマを2グループに分け9台ずつで予選を実施する。10分間のQ1のセッションは、各グループ7台が残る。Aグループの阪口からタイムアタックを開始した。ニュータイヤを装着して丁寧に温めウォームアップをしていく。4周目の計測で、1分22秒487で5番手。初めての予選で見事Q1を突破。グループBで出走した坪井は、計測5周目で1分23秒050をマーク。7番手でQ2へと2台揃って進出した。



Q2

7分間のセッションで14台が出走。8台Q3へ進出する、路面は、Q1よりも良くなりタイムアップが見込まれた。ここでセットアップ変えない判断をエンジニアが指示をした阪口は1分21秒956で4番手。自身の目標であったQ3へ進出する。Q2で向上を求めてセッティングを変更した坪井はタイムが上がったものの周囲のタイムも上がり、1分22秒552で11番手。走路外走行で2人のドライバーのタイムが抹消になり(一人は坪井より上位)、1つ順位が繰り上がり10番手となったが、残念ながらQ3への進出はならず予選を終えることとなった。

Q3

10分間の予選最終セッションがスタートした。少し日が陰り風も出てコンディションが若干変わった。ルーキーながらも楽しんでいてチームが感じた予選は、本人も緊張はないと言っている。まさに結果も堂々の5番手。1分21秒714で、トヨタ勢でトップタイムをマークした。

トヨタ勢で
トップタイムを
マークした!!

弱い雨の中、 全車ドライタイヤでスタート

決勝 4月4日(日) 天候:くもりのち雨/コース状況:ドライ/ウエット

決勝の直前のグリッドウォークに心配されていた雨が落ち始める。レインタイヤをグリッドに持ち込むチームもあったが、雨は弱くウエット宣言は出なかった。午後2時10分、41周にわたる決勝が全車ドライタイヤでスタートした。

5番グリッドからスタートの阪口は、スタートでクラッチミートが繋がらずにホイールスピン。アウト側のグリッドだった為外側に逃げたが9番手までポジションを落とした。2周目に8番手に上がるもライバルにパスされ9番手。10周を経過しピットに入ることが可能になると、上位一台が先にピットインし8番手に。再びバトルを繰り広げるのは同じくこのカテゴリーにデビューを果たしたトヨタ勢のルーキー宮田莉朋選手。惜しくも競り負け9番手にダウン。



阪口、貴重な ポイント獲得へ

23周目にピットに向かいルーティンのピット作業を実施。その前の周で入るはずだったが、無線の不具合で1周遅れることとなった。この1週の遅れは順位を上げる可能性もあっただけに残念なトラブルとなった。7.9秒のピット作業でミスなくコースに送り込む。昨年より課題だったピット作業も難なくこなした。ルーティンのピットインが続く順位が変動した後は14番手から追いつけることに。28周目で1台パスして13番手。30周を過ぎる頃には、WET宣言も出て雨も本降りとなるかと思いきや、残り11周はドライタイヤで走り切れると判断できる程度の雨。その後も上位のピット作業の消化などもあり9位フィニッシュ。貴重な2ポイントを獲得した。

坪井は新たな 使命感をもった



一方、坪井は10番グリッドから抜群のスタートを決め、6番手でオープニングラップを終える。その後2周目で1台抜き5番手と大躍進。9周目でパスされ6番手。26、29、30周目で上位がピットインし3番手まで浮上。32周を走り終え、ピットに向かう。7.8秒でピットクルーはスムーズにコースに送り出した。7位でコース復帰したものの、アウトラップで2台に抜かれ9位に。小雨が降りしきる37周目走行中に、GRスーパーコーナーの立ち上がりで縁石に乗ってスピンしコースアウト。残念ながら残り5周を残し走行を終えた。坪井の巻き返しも残ったが、3シーズン目となりここまで頑張った実力が垣間見られたレースでもあった。一方、2度スポット参戦したことはあったものの、一度目は悪天候の為決勝レースが中止となり、2度目は自分のミスにより決勝レースを走れずに終わった。今回レギュラードライバーとしてデビュー。初めてレースディスタンスを走り切り2ポイントを獲得した。若い二人のドライバーを擁して迎えた今シーズンは、初戦では明暗が分かれたものの今後の活躍を期待させるレースであった。

Results 38 予選 10位 決勝 18位 39 予選 5位 決勝 9位
坪井 朔 阪口 晴南

@INTERVIEW

坪井 翔 38号車 ドライバー

次の課題に つなげる走りへ

'1' Sho Tsuboi #38



10番手からのスタートだったのですが、周りの状況しだいで早めにピットに入ることも想定して走りました。スタートがかなり決まって6番手まで上がったと思います。前のクルマとも等間隔で走行していたので、これはピットを先延ばしにした方が良いと判断しました。雨が降ってからは周回はドライでもしっかり走れているのに、自分たちはタイヤが発動せず思うように走れなくなりました。

これは、次の課題です。最後に立ち上がりでスピンをしてしまい、ドライバーとしてはいけないミスをしチームに迷惑をかけてしまい反省しています。次の鈴鹿で挽回したいと思います。



阪口 晴南 39号車 ドライバー

良い収穫になった

'2' Sena Sakaguchi #39

スタートでステアリングの不具合があったのと、スタートの失敗とどちらのトラブルかわからないですが、クラッチのミートも繋がりが気味でホイールスピンもしてしまい、スタートでポジションを落としてしまいました。その影響でレースのペースも良くなかったです。予感していたセクター3の遅さがレースに響き、またストレートでも速さがなく1コーナーでは簡単に抜かれてしまい、レース展開としては良くなかったですね。ようやくスーパーフォーミュラのレースディスタンスを走破出来たのでこれは良い収穫だと思っています。タイムレベルが全然違うので予選と決勝ではそれを振り分けられないと感じました。予選一発の速さはあると思っていますので、富士以外のコースは抜き難いのでそれを決勝でも活かせるようにしたいです。



立川 祐路 チーム監督

'3' Yuji Tachikawa

リベンジの鈴鹿へ

今日の決勝は思っていたよりも苦しい展開となってしまいました。阪口の方は良いポジションからスタートだったのですが、ホイールスピンしてしまいスタートで飲まれてしまいました。坪井の方はスタートが決まり上手くポジションを上げることに成功しましたが、トップグループについて行くスピードはなかったですね。ピットアウト後のウォームアップに苦労しスピンしてしまいました。結果的に2台揃って、初戦は残念な結果に終わりました。次の鈴鹿は、テストの結果も良く手応えもあったので、リベンジしたいです。



Today's Race Rd,2
Suzuka Circuit 4.24SAT/25SUN